放送部、全国大会出場！

六月十二日（土）鯖江市嚮陽会館にて、第五十七回ＮＨＫ高校生放送コンテスト福井県大会が行われた。この大会において本校の放送部の二作品が入賞し、全国大会へと進むことになった。

全国大会は七月二十一日（水）～二十三日（金）は国立オリンピック記念青少年総合センターにて、二十四日（土）にはＮＨＫホールで開催される。

六月十二日（土）、鯖江市嚮陽会館で、第五十七回ＮＨＫ高校生放送コンテスト福井県大会が行われた。この大会において本校の放送部はラジオドキュメント部門、校内研究発表部門の二部門で入賞し、全国大会へと進むことになった。今回、ラジオドキュメント部門には本校で馴染みの深い検定について取り上げた作品「一生の宝」が優秀賞、校内放送研究発表では「ステージ照明制御装置の製作」が推薦となった。

それぞれの作品に係わり、ラジオドキュメントの製作担当を務めた堂國千加良さん（３－２）に今の心境を尋ねてみた。

受賞が決まった瞬間の気持ちを尋ねると、「まさか受賞できるとは思わなかった。」とそのときのことを振り返っていた。作品作りで気をつけたことは「まず完成させることを念頭において作っていた。」とのこと。というのも、テレビドラマの作品を担当していた堂國さんが、ラジオドキュメントを製作することになったのは、なんと大会二週間前。急遽作り始めることになってしまったそうだ。

かし、結果的に作品が受賞できたのは「前田先生の熱い指導、インタビューに答えてくれた加藤先生をはじめとする先生方、忙しい中付き合ってくれた二、三年生の話が素晴らしかったから。」と、周りの人々に感謝の言葉を述べていた。

全国大会に出場するにあたって、「福井県大会での入賞はスタート地点。目標は全国で最優秀賞！」と、力強く意気込みを語ってくれた。

（細井）

↑製作者・左から堂國さん、嵐さん（共に３－２）

↑質問に答える「おっ母」役・辻さん

芸術鑑賞

六月十五日（火）、武生文化センター中ホールにて、劇団「風」の『肝っ玉おっ母と子供たち』というミュージカルを鑑賞した。この作品は、十七世紀の戦時中、軍隊を相手に商売する「肝っ玉おっ母」とその子供たちが戦争に巻き込まれながらも、強くたくましく生きていく様子を描いた作品だ。

生徒たちは、登場人物の動きに食い入るように見入っていた。

鑑賞後、文化センター内で劇団主催の生徒交流会が開かれた。図書委員、生徒会をはじめ、三十名以上の生徒が参加し、会場は満員状態となった。

劇団からは「肝っ玉おっ母」役の辻由美子さんが参加。舞台を降りた「おっ母」は雰囲気も表情も一変し、普通の女性として私たちの目に映った。

「演技する上で気をつけていることは」という質問が出ると、「役柄だけでその場にいることはしない。自分とお客さん、スタッフの人たちのことや、自分が演じている舞台空間の全てを考えること。」と答えてくれた。

「肝っ玉おっ母」を中心に、様々な質問が飛び交い、終始和やかな雰囲気で交流会は終わった。

（梅田）

↑終演後、生徒からの花束贈呈

↑インタビューに答える堂國さん

家庭部 ちびっこと遊ぶ

六月四日（金）と七日（月）に、タンポポ保育園で家庭部が保育実習を行った。参加者は〇～五才までの園児たちと交流をした。

最初のうちは、園児が泣き出してしまい対応に困っていたが、遊んでいくうちに次第とコツが分かってきたようで、園児たちと仲良く遊ぶ姿が見られた。

小さい園児に比べ、四～五才の園児たちはとにかく活発で、参加者を引っ張り回していた。参加者たちも、子どもたちをおんぶして走り回り、体中が泥や汗だらけになりながらも、楽しそうに子どもたちの相手をしていた。

参加者は「楽しかった。」「またやりたい。」と笑顔で答えてくれた。小さい子と触れあうことが少ないからこそ、こういう機会を増やしていきたい。

（小西）

↑保育園児と遊ぶ家庭部員

言葉の匠

現在日本は、戦争も無く平和な状態にある。しかし、ここに至るまでに日本も幾度と無く、戦争を繰り返してきた。そして、人々から何もかも奪ってきた。イラクやアフガニスタンでは、今でもこのようなことが続いている。また戦争は無くとも、サッカーW杯が開催されている南アフリカでは、今でも人種や貧困の格差が問題視されている。

芸術鑑賞で私たちに贈られたメッセージ。「あとから生まれてくる人たちに」私たちができることは、いったい何なのか。まずは、一人ひとりが今出来ることから、取り組んでいくことが必要だと思う。

（上坂）

武工新聞
第３４号

Technical
News
Paper

発行日
7月12日
発行者
武工新聞部